3月5日（月）

River Policy Network

# 「これからの河川事業はこう変わる」
# ー米国の再生型河川事業の最新事情ー

○会場：名古屋国際会議場 1号館3階 135会議室　（名古屋市熱田区熱田西町1-1）
○受講料：20，000円 （RPN会員17，000円 同時入会可能）※資料代含む
○開演：13：00～16：30【開場12：30】

★平成9年に河川法が改正され、河川環境の整備と保全が河川法の目的として明確になるとともに、多自然型川づくりは各地の河川で行われるようになりました。
★平成18年5月には「多自然川づくりへの展開」が進められることとなり、河川全体の自然の営みを視野に入れた河川管理が行われることとなりました。
★計画、設計、施工、維持管理の各段階において多自然川づくりの方針を決定し、共有する仕組みを構築することが求められています。
★多自然川づくりを推進する上で河川環境の再生のために河川構造物の撤去も視野に入れた検討が始まっていきます。
★本セミナーでは、アメリカ開墾局において河川再生事業を手がけてきたウェグナー氏による、現在の米国における河川再生事業と、今後日本で行われるであろう河川政策について解説いたします。

対象：河川環境に係わる建設コンサルタント、土木技術者、研究者並びに河川に係わる全ての方々

◎講師：David L Wegner
ディビッド・L・ウェグナー
元アメリカ開墾局研究者。科学的手法による河川再生プログラムの立案、実施の専門家。専門は水生生物学、河川工学、リスク評価、適合的管理。

◎所要時間：名古屋駅から約20分
【最寄駅】
◎地下鉄名港線「日比野駅」徒歩約5分
◎地下鉄名城線「西高蔵駅」徒歩約5分


●主催：リバーポリシーネットワーク（RPN）
〒550-0014 大阪市西区北堀江1-21-11-3B


受講申込書　▶▶▶FAX：06-6543-8456
2007年3月5日（月）　　年　　月　　日
「これからの河川事業はこう変わる」　受講料：20,000円

| | | | |
|---|---|---|---|
| 団体名 | | | |
| 所在地 | □□□-□□□□ | | |
| 部署名<br>役職名 | | 受講者名 | |
| TEL | | FAX | |
| Eメール | | 支払い予定日 | |

【申込要項】
必要事項をご記入の上、FAXまたはEメールでお申し込み下さい。
先着順に定員（40名）に達するまで受け付けます。

FAX：06-6543-8456
E-mail rpn@r6.dion.ne.jp

お申し込みいただいた方には請求書をお送りいたしますので、届きましたら2週間以内にお支払い下さい。折り返し受講証とテキストをお送りします。当日受付に受講証をご提示下さい
キャンセルの場合は開催日の1週間前までにお知らせ下さい。それ以降は、受講料の払い戻しはできませんのであらかじめご了承下さい。
なお、申込者がご都合の悪い場合は、代理の方が出席下さい。

# 「これからの河川事業はこう変わる」－米国の再生型河川事業の最新事情－

◎開催日：2007年3月5日（月）　13：00～16：30 《開場12：30》
◎会場：名古屋国際会議場1号館3階　135会議室　（名古屋市熱田区熱田西町1-1）
◎主催：リバーポリシーネットワーク（RPN）
◎講師：ディビッド・L・ウェグナー（元アメリカ開墾局研究者）
◎テキスト：『ダム撤去』科学・環境・経済のためのハインツセンター　編

米国では①ダムの安全性の懸念、②維持・管理コストの大きさ、③絶滅危惧種の保護、④生態系の再生、⑤回収できる建設コストの検討 の5点から、すでに500～1000のダムが撤去された。これまでダム建設を担ってきた連邦政府の開墾局と陸軍工兵隊が、現在は河川の修復・再生をほとんどの仕事にしている。

日本においても、今後河川再生のために、構造物としての耐用年数のすぎている砂防ダムやダムの撤去について検討が進むとと思われる。

本セミナーでは米国の河川政策がどのように変わってきたのか、また実際に行なわれているダムや構造物の撤去事例を元に、行政や市民との関わり、撤去における具体的な問題を以下の4点を中心に解説する。

①データを収集し目的を明確にする。
②問題点を確実に把握する。
③起こりうる結果を評価する。
④意志決定プロセスの透明性を高くする。

## ★講師：David L Wegner　ディビッド・L・ウェグナー

デビッド・L・ウェグナー氏は1970年代後半から革新的な科学的手法を用いた河川再生プログラムの立案、調整、および実施に関わり、その活動の場はアメリカ西部にとどまらず国際的である。最近では、エコシステムマネジメントインターナショナル社を設立し、彼はその科学的専門的知識を生かし、グランドキャニオンにおいて絶滅危惧種および河川プロセスの研究に焦点を当てた地表再生事業を行った。1982年から1996年にかけて、ウェグナー氏はコロラド川集水域におけるかつてない規模での生態系システム研究および生態系再生事業をコーディネートしている。彼の専門分野は水生生態学、河川工学、リスク評価および適用可能な管理に対する科学的なアプローチである。彼は専門家としてミネソタ州、ユタ州、およびアメリカ内務省（DOI）との事業に従事し、また、膨大な数のアメリカインディアンおよび環境団体のコンサルティングを行っている。彼はその手がけた公共事業により、アメリカ学術研究会議を含む諸機関から非常に多くの賞賛を受けており、アメリカ内務省開墾局管理賞も受賞している。

**DAM REMOVAL** 『ダム撤去』
科学・経済・環境のためのハインツセンター　編　青山巳織 訳　岩波書店　￥2,940（税込）

内容紹介

ダムはこれまで水力発電や利水、治水などに様々な貢献をしてきた。しかしその一方で、最近の調査研究からは、ダムが自然の水系や河川の性質を変え、川を分断して魚の遡上を遮り、水路や氾濫源を埋没させることによって生息地を消失させるなど、生態系に重大な影響を与えていることも分かってきた。また多くのダムが建設後50年以上を経ようとしている現在、建造物としての安全性の面からもその役割は大きく見直されようとしている。

そうした中で、『ダム撤去』は安全面、経済面からも有力な選択肢として注目されるようになってきた。すでに500基を超えるダム撤去を行っている米国の専門家がその影響を環境・経済・社会など様々な角度から考察し、客観的な情報を提供している本書は、多くの老朽ダムを抱えて今後ダム撤去を真剣に考えなければならない日本の行政関係者、自治体、市民、専門家にとって格好の手引きとなるでしょう。